

## マリ援助事業内容説明写真



(4/3)

作業グループ全員、車両3台で事業サイトへ向け早朝出発。約1,100キロの砂漠を縦走して、深夜アユン到着。途中パンク4回、先頭の車両がチシット文化協会（モーリタニア側カウンターパートNGO）提供の4WD、左の2台がレンタルしたもの。



翌4/4、10AM モーリタニア・マリの国境を越える。国境はコンクリートの標識が無造作においてあるだけ。

国境までニオロ市長、ニオロ開発基金代表（マリ側カウンターパートNGO）などが出迎えてくれた。

(4/4、10:30AM)



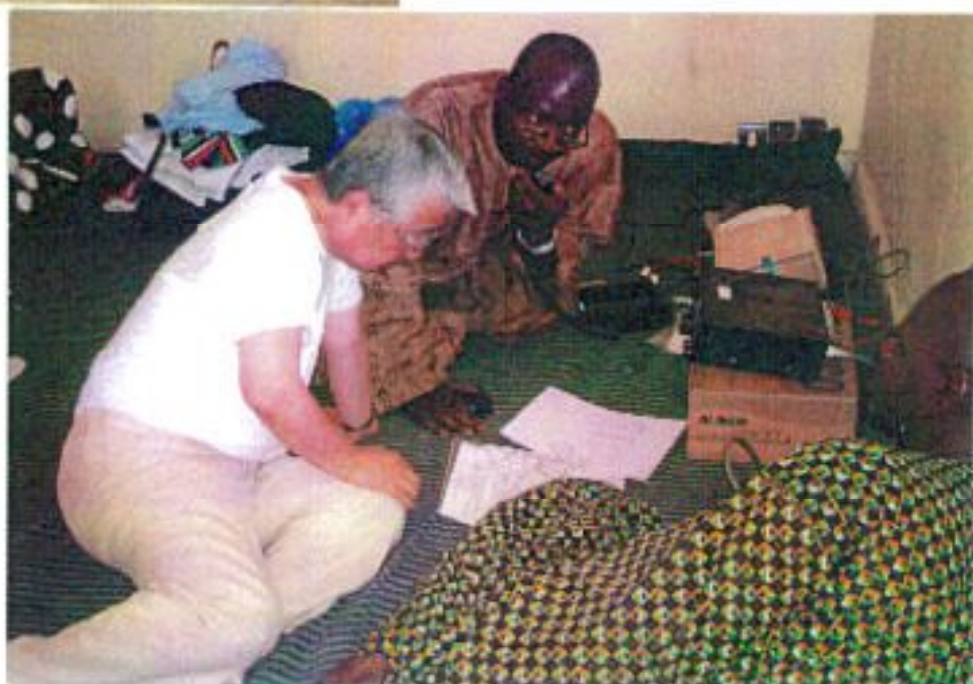
ニオロ到着後、直ちに作業指示連絡用として宿舎（部族長の私邸）に固定基地局を建設。

マリ技術者とアンテナの組み立て作業。



宿舎の屋上に完成した連絡用アンテナ  
なお、当該固定局は全作業終了後バマ  
コに移動する予定。

早速、在ノアクショットの  
チシット文化協会無線局へ  
作業グループの無事到着を  
報告するマリ側スタッフ



4 / 4 午後、続いて作業グループをA、Bの2班にわけ、宿舍近くのニオロ開発基金事務所内と同市市役所内に固定局をそれぞれ設置した。



Bグループによるニオロ市役所での設置作業と完成した無線局



Aグループの設置したニオロ開発基金事務所は、小学校にもなっており、子供たちは板に書いたコーランの学習を受けていた。右はアンテナ建設作業。

4 / 5 午前、部長、理事、ニオロ市長、警察署長、郵政事務官並びにマリ及びモーリタニアのカウンターパート代表者が出席して機材贈呈式を行い、ニオロ開発基金代表の受領署名と宣誓文付きの寄贈機材リスト（添付書類⑤）を交換した。



林団長よりニオロ開発基金代表に贈呈機材リストが手交された。



ニオロ市長挨拶



林団長の機材説明



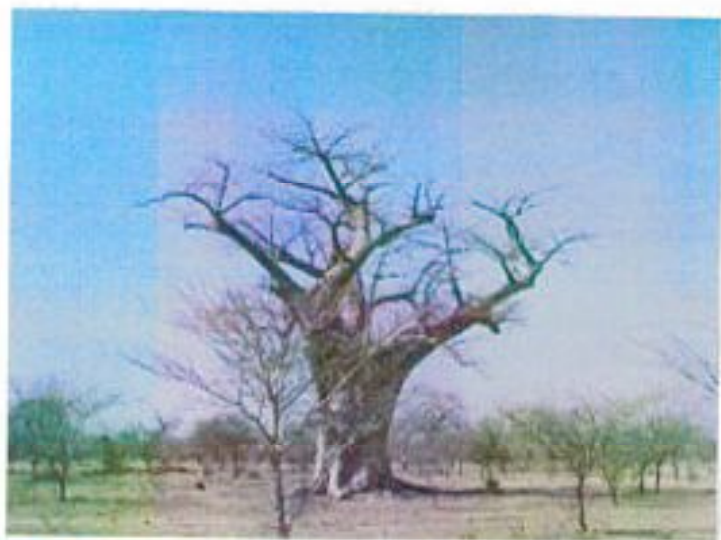
贈呈式後、事業日程、設置村落の一部変更などについて、関係者と打ち合わせた。



ソーラーパネルを屋上に設置。



支給された工具箱を早速活用して作業指示を受けるマリ技術者



ニオロ西方60キロのYOURIは  
美しいバウバブの林で有名な場所。

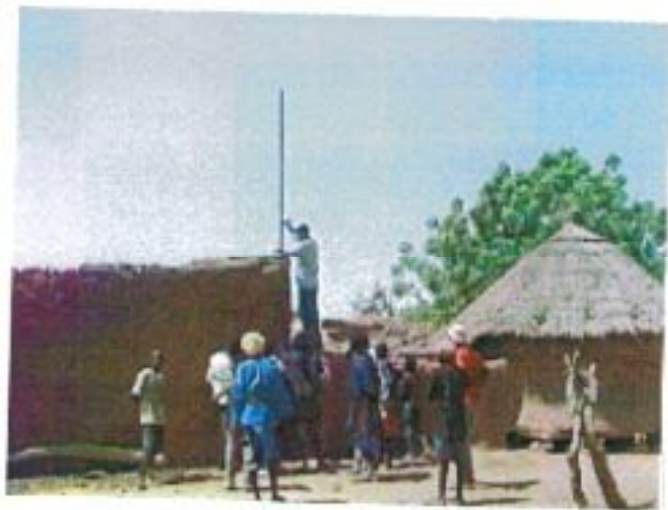


ソーラーパネルの結線を説明する日本人専門家（YOURI）

トヨタピックアップに機材を積んで炎天下のサバンナをD J E W A Y I に向かう。  
外気温度は摂氏50度！（4/7）



D I E M A 村にアンテナパイプを立てる（4/7）



完成した無線局でアンテナのSWRを測定する  
エンジニアたち（D J E W A Y I）



無線機を抱えて建設場所に向かうマリエンジニアと日本人専門家たち（4/6、KARASMALA）



立て終わったアンテナの前で子供たちと。  
(BENERE村)

歌と踊りで作業グループを歓迎して  
くれたGUIDIBAの子供たち



作業を覗き込む村の子供たち  
(GADIABA DIALLA)



KARAMALA村の子供たち



(DIERMA村の子供たち)



KARASMALACに設置したアンテナと無線機のテスト  
(4/6)



GADIABA DIALLACに立てたアンテナ(4/9)



DJIGENTA片での無線局設置会談(4/8)

車両（移動局）への無線機取付は最も高度の技術力と豊富な経験が必要とされる。



1. 100キロの砂漠縦走の車両に無線機の  
装着作業。隊員の安全のために絶対必要である。(4/2)



ニオロでは3台の車両に装着作業(4/8~9)



ニオロのシフト車に無線機を装着する作業(4/13)



4 / 9 夕刻、無事全作業工程を終了した日本人専門家グループを部族長代理、ニオロ基金代表はじめ、マリ側の関係者たちが国境まで見送りに来てくれた。



林団長夫妻と山上隊員は、4 / 15、在セネガル日本大使館を訪問、宮武（マリ担当）白石（モーリタニア担当）の両外務事務官に事業の終了報告を行った。

